

## インターバンクの声（2016年8月17日）

東京市場の昼前からドル売りに動き始めた円相場は、夕方には一旦 100 円割れの一手手前でドルの買戻しも見られ、ひとまず 6 月 24 日に英国が国民投票で欧州連合 (EU) からの離脱決定後のドル急落以来となる 99 円台入りは回避されたかに思われた。しかし、米経済指標結果に冴えない数字が目立っているためか、米連邦準備理事会 (FRB) の年内利上げが後退したとの思惑による一部投機筋からのドル売り圧力は根強く、住宅関連や消費者物価指数の発表前にも関わらず久々の 99 円台突入となってしまった。指標の結果次第ではドル売りに勢いが付く可能性もあったが、7月の住宅着工件数が市場予想を上回ったことと、何よりもダドリー・ニューヨーク連銀総裁が「労働市場の引き締めや賃金増の兆候を踏まえると、9月にも FRB が利上げする可能性がある。」との認識を示したことで100円台中盤までドルが買い戻された。この後、ロックハート・アトランタ連銀総裁も「年内少なくとも1度の上げの可能性を排除しない」と述べている。昨日のニューヨーク株式市場の反応を見ても、市場がダドリー総裁の発言にかなり影響されたのが判るが、いよいよ 8 月 26 日のジャクソンホールでイエレン FRB 議長からどのような発言が飛び出すかが最大の注目となった。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。